2026-09-28 終値時点 · 決算は FY26 Q3（2026-06-27 終了、10-Q は 2026-07-31 提出）まで。株価は 2026-09-28 終値、現在値 $329.40 は 2026-09-29 終値

アップル（Apple Inc.） AAPL

アップル：iPhone売上高は前年比22%増、同業比79%のPERプレミアムが主なバリュエーションリスク

アップルの 6 月四半期の売上高は前年同期比 16.4% 増の $109.4B、iPhone は 22% 増であり、ファンダメンタルズはここ数年で最も好調な局面にある。ただし EPS $2.02 のうち $0.11 は一時的な関税還付によるものであり、売上総利益率 50.1% のうち約 2 ポイントも還付による。これを除くと、コンセンサスに対する上振れ幅は 6.7% から約 0.9%（推定）に縮小する（8-K、2026-07-30）。在庫のうち部品は $2.1B から $7.6B に増加し、メモリー価格の上昇は加速している（10-Q、2026-07-31）。株価は今期予想 PER 37.3x で取引されており、同業中央値 20.8x に対して 79% のプレミアムである一方、売上高成長率は同業で最も低い。

レーティング · 12カ月 · 対 S&P 500	株価	時価総額	1年騰落率	今期予想PER
買い 2026-10-01 確定 · レーティングの定義	$338.40 2026-09-28 終値	$4.81T Technology	+33.0% 年初来 +24.8%	37.3x EPS 8.82（アナリスト平均）
次回決算 2026-10-30 yfinance カレンダー				

01

相場環境

相場全体が軟化するなか、アップルは逆行高となっている。S&P 500 は 1 週間で -1.2%、1 カ月で -0.5%、年初来 +12.1%。ラッセル 2000 は 3 カ月で -7.2% である。米 10 年債利回りは 5.26% で、1 カ月で 53.5bp 上昇した。VIX は 16.04、ドル指数は 1 カ月で +1.7 である。

テクノロジー ETF（XLK）の年初来 +35.6% に対し、アップルは +24.8% とセクターを下回るが、S&P 500 を 12.8 ポイント上回る。1 年ベータ（市場に対する感応度）は 0.71、

相関係数は 0.38 にとどまり、この 1 年の上昇は相場全体ではなく自社の iPhone 製品サイクルによるものと判断される。
最大の外部要因は金利である。9 月の利上げ後、PER 37 倍の銘柄は割引率の上昇に最も敏感である。9 月 29 日にアップルは 2.7% 下落して $329.40（yfinance 現在値）となったが、会社固有の明確な要因は確認できなかった（推測：利回り上昇の影響）。

指数とセクター

	直近	1週間	1カ月	3カ月	年初来	1年
S&P 500	7,670.84	-1.2%	-0.5%	+2.3%	+12.1%	+15.2%
ナスダック総合	26,797.54	-1.6%	+1.5%	+2.2%	+15.3%	+18.6%
ダウ工業株30種	51,349.92	-1.0%	-4.1%	-1.9%	+6.8%	+10.9%
ラッセル2000	2,807.92	-2.8%	-5.5%	-7.2%	+13.1%	+15.3%
Technology セクター ETF	194.53	-0.2%	+4.9%	+5.0%	+35.6%	+40.2%
AAPL	**338.40**	**-0.2%**	**+5.8%**	**+20.2%**	**+24.8%**	**+33.0%**

金利・ボラティリティ・相対パフォーマンス

VIX 恐怖指数	米10年債利回り	ドル指数	対 S&P ベータ	3カ月の超過リターン	1年の超過リターン
16.04	5.25%	101.41	0.71	+17.9%	+17.8%
1カ月 +1.61	1カ月 +54bp	1カ月 +1.71	1年相関係数 0.38	対 S&P 500	対 S&P 500

マクロと市場の出来事

日付	出来事	この銘柄にとっての意味	出典
2026-09-16	FRB が 25bp 利上げ、誘導目標は 3.75%–4%。2023 年以来の利上げ	政策金利の上昇 → 割引率の上昇 → 高バリュエーション株に逆風。アップルの今期 PER 37.3x は同業中央値に対して 79% のプレミアムであり、影響を最も直接的に受ける。分割払いによる iPhone 購入の金利負担も増加する（推測。需要への影響は定量化されていない）。	Federal Reserve
2026-09-11	8 月 CPI は前年比 3.4%、ガソリンは 27.4% 上昇、原油は再び $100 超え	原油主導のインフレ → 追加利上げの確率上昇 → バリュエーション圧力の継続。エネルギー支出の増加は裁量的消費を圧迫し、$1,999 の折りたたみ iPhone のような高価格帯の新製品には逆風となる（推測）。	CNBC
2026-09-28	米 10 年債利回りが一時 5.281%、30 年債は 5.613% と 2002 年以来の高水準	長期金利が数年来の高水準 → 債券に対する株式の相対的魅力が低下。アップルの配当利回りは 0.32% と 5% を超える国債利回りを大きく下回り、バリュエーションは自社株買いと成長に依存している。	CNBC

日付	出来事	この銘柄にとっての意味	出典
2026-09-04	8 月の非農業部門雇用者数は 16.2 万人増、失業率 4.1%	雇用は予想（5.3 万人）を上回った → 消費需要は底堅く、買い替え需要には追い風となる一方、FRB に利上げの根拠も与える。アップルにとっては需要面でプラス、バリュエーション面でマイナスである。	CNBC

02

イベント

2026-09-25

悪材料 ニュース

陪審がアップルに Taction への $5.7B の賠償を命じる評決、米国史上最大の特許賠償額

サンディエゴの連邦陪審は、Taptic Engine が Taction の触覚技術特許 2 件を侵害したと認定したが、故意侵害は認めなかった。アップルは控訴する方針である。$5.7B は TTM 純利益 $128.9B の約 4.4% であり、一過性の負担としては吸収可能な水準である。7 月の 10-Q では、経営陣は重大な損失が生じる合理的な可能性はないとしていた（10-Q、2026-07-31）。

出典：Reuters（Claims Journal 転載）

2026-09-09

未確定 会社発表

初の折りたたみ端末 iPhone Duo は $1,999、10 月 23 日発売

10 月 16 日に予約開始、10 月 23 日に 70 以上の国と地域で発売する。12 月四半期の平均販売単価を押し上げる可能性があるが、生産能力と歩留まりが不明であり、売上寄与の規模は見積もれない。

出典：Apple Newsroom

2026-09-09

未確定 会社発表

iPhone 18 Pro は $1,199 から、Pro Max は $1,299 から

発表前の MacRumors の予測では、いずれも前世代より $100 高い価格である。値上げによりメモリーコストの上昇を吸収できるが、買い替え台数への影響は 12 月四半期のデータで確認する必要がある。9 月 18 日発売。

出典：Apple Newsroom

2026-09-01

中立 会社発表

ジョン・ターナス氏が CEO に就任、ティム・クック氏は執行会長へ

4 月 20 日発表、9 月 1 日発効の計画的な経営交代である（8-K item 5.02、2026-04-20）。ターナス氏はハードウェアエンジニアリング担当上級副社長を務めていた。当面の事業方針に変更はなく、折りたたみ端末と AI 戦略の実行は同氏が担う。

出典：NPR

2026-07-31

悪材料 決算

10-Q：部品コスト高と供給制約は「さらに強まる見通し」

10-Q のリスク要因は、先端半導体、NAND、DRAM の需給逼迫により供給制約とコスト上昇が生じており、会社はこの傾向が強まると見込んでおり、売上高と売上総利益率に重大な悪影響を及ぼし得ると記載している（10-Q、2026-07-31）。同期間に部品在庫は $2.1B から $7.6B に増加した。

出典：10-Q（2026-07-31）

2026-07-30

悪材料 決算

9 月四半期見通し：増収率は 9%–11% に減速、売上総利益率は 47%–48%

増収率は 16% から 9%–11% に減速し、売上総利益率は 50.1% から 2–3 ポイント低下する。経営陣は先端プロセス半導体の供給逼迫とメモリー価格の上昇を要因に挙げた。9 月四半期売上高のアナリスト・コンセンサス $113.6B（+10.9%）はすでにガイダンスの上限に位置している。

出典：MacRumors

2026-07-30

好材料 決算

6 月四半期売上高 $109.4B（+16%）、EPS $2.02 には関税還付 $0.11 を含む

iPhone $54.3B（+22%）、Mac $10.4B（+29%）、サービス $30.7B（+12%）、大中華圏 $18.8B（+22.4%）。プレスリリースは、売上総利益率 50.1% に関税還付による約 2 ポイント、EPS に $0.11 が含まれると明記している（8-K、2026-07-30）。増収は実質的なものであるが、利益の上振れの質は表面上の数値より低い。

出典：8-K（2026-07-30）

赤は好材料、緑は悪材料（中国式の配色）、灰色は中立、青はまだ判断できないもの。

過去90日のアナリスト評価の変更（31件、直近12件を表示）

日付	機関	動き	評価	目標株価
2026-09-29	Morgan Stanley	reit	Overweight → Overweight	360 → 360
2026-09-23	B of A Securities	reit	Buy → Buy	370 → 370
2026-09-18	Evercore ISI Group	main	Outperform → Outperform	365 → 380
2026-09-17	B of A Securities	reit	Buy → Buy	370 → 370
2026-09-10	TD Cowen	reit	Buy → Buy	400 → 400
2026-09-10	Rosenblatt	main	Neutral → Neutral	303 → 303
2026-09-10	B of A Securities	main	Buy → Buy	380 → 370
2026-09-08	HSBC	reit	Buy → Buy	366 → 366
2026-09-08	Needham	reit	Hold → Hold	0 → 0
2026-09-02	Morgan Stanley	reit	Overweight → Overweight	360 → 360
2026-09-02	DA Davidson	main	Neutral → Neutral	270 → 270
2026-09-01	Rosenblatt	main	Neutral → Neutral	300 → 303

yfinance の集計で、個別には検証していません。up 引き上げ、down 引き下げ、main 据え置き、init 新規、reit 再表明。

03

レーティングとスコアカード

当社のレーティング

買い　今後12カ月のトータルリターンが S&P 500 を10〜20ポイント上回ると予想 · スコアカード加重点 3.05

発行者の評価：買い。 本評価は発行者が決定したものであり、ルールに基づく推奨（中立、スコアカード加重点 3.05）より1段階高い。

ルールはバリュエーションを1点とした。今期PERは37.3倍であり、同業中央値20.8倍に対して79%のプレミアムである。ただし、今回の iPhone サイクルはこのプレミアムを正当化し得ると判断する。

ファンダメンタルズはここ数年で最も強い局面にある。 6月四半期の売上高は1,094億ドル（+16.4%）、iPhone は+22%、中華圏は+22.4%。折りたたみ式の iPhone Duo が10月に発売され、12月四半期の平均販売単価を押し上げる見込みである。

キャッシュ創出力はデータベンダーの数値を上回る。 決算書ベースの直近12カ月フリーキャッシュフローは1,367億ドル（yfinance は1,077億ドル）、フリーキャッシュフロー / 純利益は1.06倍である。長期保有の有価証券841億ドルを含めると、ネットキャッシュは約622億ドルとなる。

株価トレンドは良好である。 3カ月・1年とも S&P500 を約18ポイント上回り、株価は50日・200日移動平均線を上回っている。

主なリスク： 前四半期の上振れ $0.13 のうち $0.11 は一時的な関税還付によるものである。部品在庫は21億ドルから76億ドルに増加し、メモリー価格の上昇も続いている。9月四半期の粗利益率見通しは47%〜48%である。Taction 訴訟の57億ドルの評決は控訴中であり、Google の検索分配金には独禁法上のリスクがある。

評価を変更する条件： 12月四半期の売上高成長率見通しが5%未満、Google 検索分配金を禁止する判決、または粗利益率の見通し下限割れのいずれかが生じた場合は格下げとする。

レーティングは公開情報にもとづくリサーチ上の見解で、特定の個人の資産状況を前提にしたものではありません。ルールと分布は レーティングの定義

ファンダメンタルズ	バリュエーション	モメンタム	決算の質	リスク
4 / 5	1 / 5	5 / 5	3 / 5	3 / 5

リスクの点数は高いほどリスクが低いことを示します。5項目の加重点から推奨レーティングを出し、発行者が確認して確定します。

この点数の理由

ファンダメンタルズ
4 / 5

売上高は 6 月四半期 +16.4%、9 カ月累計 +16.2% で、10%–20% の区分に該当するため 4 点とした。5 点としない理由は、成長が加速しておらず、9 月四半期の見通しが 9%–11% に低下するためである。利益率による加点も行わない。営業利益率 32.6% は前年同期比 2.6 ポイント上昇しているが、約 $2.2B の関税還付（推定）を除くと約 30.6% であり、改善幅は 0.6 ポイントにとどまる。

売上高 +16.4%（Q3）、+16.2%（9M）；営業利益率 32.6%、還付除き約 30.6%（推定）

バリュエーション
1 / 5

今期 PER 37.3x は同業中央値 20.8x（MSFT、GOOGL、AMZN、META、DELL）に対して 79% のプレミアムであり、「40% 超割高」の区分に該当する。PEG もより高い評価を支持しない。来期 EPS の予想成長率は 8.6% であり、PEG は約 4.3 となる。売上高成長率 16.4% はこの同業グループで最も低い。同業はプラットフォームやハードウェアの大手であり事業構成は完全には一致しないが、バリュエーション格差が大きく、結論に影響はない。

PER 0y 37.3x、同業中央値 20.8x；+1y 34.4x；PEG 約 4.3

モメンタム
5 / 5

S&P 500 に対する超過リターンは 3 カ月 +17.9%、1 年 +17.8% であり、いずれも 10 ポイントを上回る。株価は 50 日移動平均線を 5.1%、200 日移動平均線を 17.5% 上回る（2026-09-28）。9 月 29 日に 2.7% 下落した後も、両移動平均線を上回っている。

超過リターン 3M +17.9%、6M +20.0%、1Y +17.8%；200 日移動平均線比 +17.5%

決算の質
3 / 5

5 点から 2 点減点した。① 6 月四半期の EPS $2.02 には一時的な関税還付 $0.11 が含まれ、売上総利益率にも約 2 ポイント含まれる（8-K、2026-07-30）。アップルは調整後の数値を公表しておらず、アナリストが比較対象とする「実績 EPS」はこの還付込みの GAAP 数値である。このため、調整後数値に一時的利益が含まれる場合と同様に扱った。② 在庫は $5.7B から $11.1B に増加し、うち部品は $2.1B から $7.6B に増加した一方、製品は $3.6B から $3.4B に減少した（10-Q、2026-07-31）。売上高を大きく上回るペースであり、在庫の積み増しに該当する。減点しなかった項目：TTM の営業外収益 $1.05B は税引前利益の 0.7%、TTM フリーキャッシュフロー / 純利益は 1.06 である。

関税還付 1 株 $0.11；部品在庫 $2.1B → $7.6B；フリーキャッシュフロー／純利益 1.06

リスク
3 / 5

5 点から 2 点減点した。① 1 社で売掛金の 18%（2025 年度末は 12%）を占め、通信キャリア合計では 27% である（10-Q、2026-07-31）。② 定量化されていない法的・規制リスク：反トラスト訴訟の控訴審で Google からの検索収益の支払いが禁止される可能性（10-Q リスク要因）、司法省による反トラスト訴訟の継続、控訴予定の Taction 評決 $5.7B。減点しなかった項目：1 年ボラティリティ 24.5%、最大ドローダウン -13.8%；ネットキャッシュ約 $62.2B；購入義務 $86.3B は時価総額の 1.8%、TTM 営業キャッシュフローの 0.59 倍である。

1 社で売掛金の 18%；購入義務 $86.3B；ネットキャッシュ約 $62.2B

ウォール街の見方

評価の分布（44社）



強い買い 6　買い 19　保有 13　売り 3　強い売り 3

目標株価のレンジ



yfinance の集計、アナリスト39人、更新時期は不明。分布を示すだけで、目標株価を裏づけるものではありません。

04

決算を読み解く

四半期業績

四半期末	売上高	前期比	前年比	粗利率	営業利益率	純利益	希薄化後EPS	営業CF	フリーCF
2025-06-28	$94.0B	-1.4%	+9.6%	46.5%	30.0%	$23.4B	1.57	$27.9B	$24.4B
2025-09-27	$102.5B	+9.0%	+7.9%	47.2%	31.6%	$27.5B	–	$29.7B	$26.5B
2025-12-27	$143.8B	+40.3%	+15.7%	48.2%	35.4%	$42.1B	2.84	$53.9B	$51.6B
2026-03-28	$111.2B	-22.7%	+16.6%	49.3%	32.3%	$29.6B	2.01	$28.7B	$26.7B
2026-06-27	$109.4B	-1.6%	+16.4%	50.1%	32.6%	$29.8B	2.02	$34.4B	$31.9B

出典：SEC XBRL。フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー − 設備投資。第4四半期の EPS は XBRL に欠けることが多く、会社発表の数字を優先します。

バリュエーション

基準	EPS	PER
GAAP、直近12カ月	8.73	37.7x
調整後、直近12カ月（アナリスト基準）	8.72	37.8x
今期予想（0y）	8.82	37.3x
来期予想（+1y）	9.58	34.4x

yfinance の forwardPE 34.4x は FY27（2026 年 9 月末に始まり 2027 年 9 月に終わる年度）の EPS $9.58 に基づく。アップルの決算期は 9 月末であり、FY26 は実質的に終了しているため、アップルについては +1y ベースが実質的な予想ベースとなり、37.3x より 34.4x の方が参考になる。ただし 34.4x でも同業中央値 20.8x に対して 65% のプレミアムである（同業の算出基準は統一されておらず、MSFT の 0y は 2027 年 6 月期）。FY26 の EPS 予想 $8.82 は関税還付を含むため、FY27 の +8.6% 成長は一時的項目でかさ上げされた基準からの伸び率である。アナリスト 39 人の目標株価中央値は $340 であり、現在値を 3.2% 上回る。

現在の株価で計算。予想 EPS は yfinance が集計したアナリスト平均で、調整後ベースです。

決算書が語っていること

上振れの大半は関税還付による。 yfinance では 6 月四半期 EPS $2.02、上振れ率 6.7% である。プレスリリースには、売上総利益率 50.1% に約 2 ポイント、EPS に $0.11 の関税還付が含まれると記載されている（8-K、2026-07-30）。10-Q は還付を製品売上原価の減額として計上したと説明している（10-Q、2026-07-31）。還付を除く EPS は約 $1.91 であり、コンセンサス $1.89 を約 0.9% 上回るにとどまる（推定）。6 月四半期の上振れはほぼ一時的項目によるものであり、9 月四半期の見通しでは売上総利益率はすでに 47%–48% に戻っている。

在庫は倍増し、増加分はすべて部品である。 yfinance は在庫の前四半期比 +64.4% を示している。10-Q の注記では、部品 $2,124M → $7,645M、製品 $3,594M → $3,447M（2025-09-27 → 2026-06-27）である。10-Q に直接の説明はないが、同じ書類はメモリーと NAND のコストが上昇し、さらに強まると記載している。値上がり前にメモリーなどの部品を確保したと推測される。今後数四半期のコスト上昇の緩衝となる一方、9 カ月間の営業キャッシュフローを $5.5B 押し下げた。

売掛金の集中度が上昇。 1 社で売掛金の 18%（2025 年度末は 12%）、通信キャリア合計で 27% を占める（10-Q、2026-07-31）。売掛金回転日数は 26 日（推定）であり、長期化は見られない。

無形資産が倍増、理由は開示されていない。 無形資産（純額）は $13.3B から $25.4B に増加し、総額ベースで $13.3B 増えた。その他の固定負債は $41.5B から $55.1B に増加している。投資キャッシュフローの「その他」の流出は $1.8B にとどまり、大半は現金で支払われていない（10-Q、2026-07-31）。分割払いのライセンスやコンテンツ契約と推測されるが、確認できず。

基本的な数値はすべて一致。 売上高、営業利益、純利益、GAAP EPS、営業キャッシュフロー、売掛金、在庫は、直近 4 四半期で yfinance と XBRL の差異がすべて 0.0% であった。

キャッシュフローは健全である。 TTM の営業キャッシュフロー $146.7B、設備投資 $10.0B、フリーキャッシュフロー $136.7B であり、純利益 $128.9B の 1.06 倍である。9 カ月間には 2017 年税制改革に伴うみなし配当課税の残額 $8.8B も一括で支払っており（10-Q、2026-07-31）、これを除けば比率はさらに高くなる。

有利子負債は減少。 9 カ月間に新規の社債発行はなく、ターム債 $8.1B とコマーシャルペーパー $5.9B を返済した。ターム債の簿価は $90.7B から $82.3B に減少した（10-Q、2026-07-31）。

原資料にしか書かれていないこと

Taction 評決の前、経営陣は重大な損失はないと判断していた。 10-Q は、重大な損失が生じる「少なくとも合理的な可能性」はないとしていた（10-Q、2026-07-31）。9 月 25 日、陪審は $5.7B の賠償を認めた。10-K で引当金を計上するか、その金額が焦点となる。

Google からの検索収益が停止するリスク。 10-Q のリスク要因には、控訴審で現行の判決が覆れば Google がアップルに検索配信の対価を支払うことが禁止され、このライセンス収入に重大な悪影響が生じ得ると記載されている。金額は開示されていない。

購入義務 $86.3B：製造関連の購入 $57.0B（うち $56.2B は 12 カ月以内に支払い）とその他の購入 $29.3B（10-Q、2026-07-31）。時価総額の 1.8% であり減点対象ではないが、下期に向けて数量を先行確保していることを示す。

関税リスクは形を変えている。 2026-02-20 に最高裁が IEEPA 関税を無効としたことを受けて会社は還付を申請したが、同じ 10-Q は最近発動された 301 条関税と、継続中の 232 条半導体調査にも言及している（10-Q、2026-07-31）。

サプライヤーの集中：2 社がそれぞれサプライヤー向け非営業債権の 46% と 23% を占める。

非 GAAP 定義の変更：確認されなかった。アップルは GAAP のみを開示しており、プレスリリースで関税還付の影響を初めて個別に数値化した。

自社株買いは鈍化：9 カ月で $61.8B（2.15 億株）。キャッシュフロー計算書ベースでは $62.1B であり、前年同期は $70.6B であった。4 月に $100B の追加枠を承認している（8-K、2026-04-30）が、残枠は 10-Q に開示されていない。

データベンダーの誤り

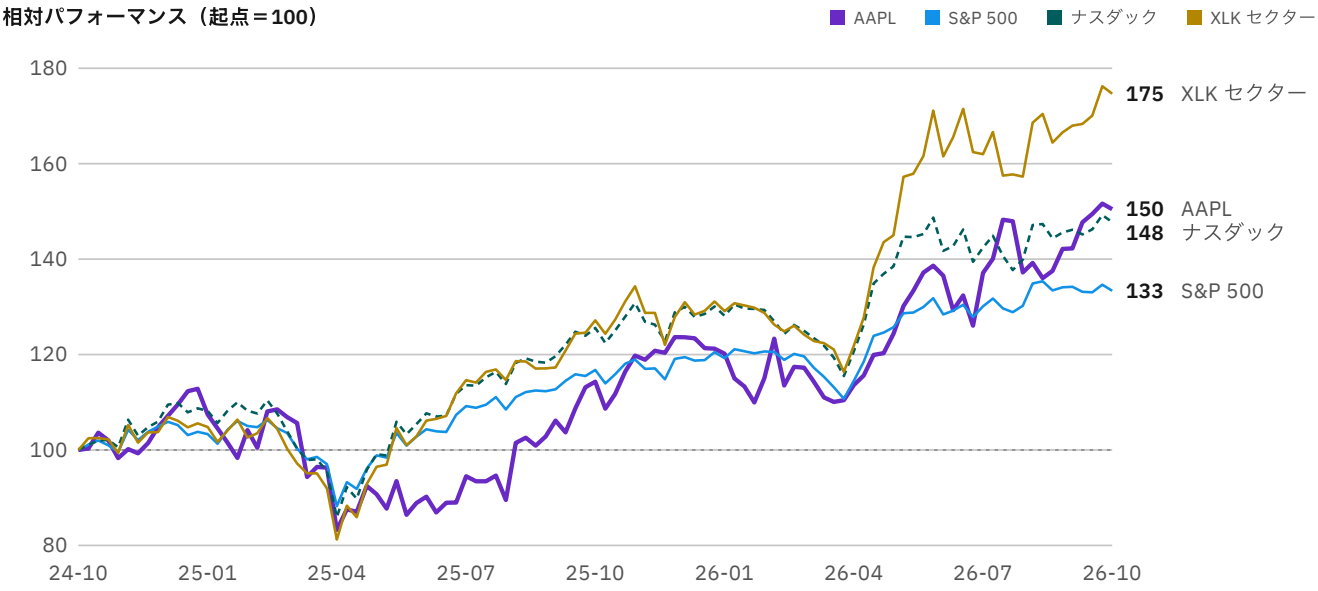
項目	yfinance	原資料（計算方法つき）
freeCashflow	$107.7B	**$136.7B** = TTM 営業キャッシュフロー $146.7B – 設備投資 $10.0B（XBRL、2026-06-27 までの 4 四半期）

項目	yfinance	原資料（計算方法つき）
totalCash	$62.4B	**$146.5B** = 現金 $39.5B + 流動の有価証券 $22.9B + 固定の有価証券 $84.1B（10-Q 注記 4）。有利子負債 $84.3B に対し、ネットキャッシュは約 $62.2B であり、純負債ではない
earnings_history 2026-06-30 の上振れ率	+6.7%（$2.02、予想 $1.89）	EPS に関税還付 $0.11 を含む（8-K、2026-07-30）。除外すると約 $1.91、上振れ率は約 +0.9%（推定）
売上総利益率（quarterly / grossMargins）	6 月四半期 50.1%	関税還付による約 2 ポイントを含む（8-K、2026-07-30）。除外すると約 48.1%（推定）。9 月四半期の見通しは 47%–48%
forwardPE	34.4x	+1y（FY27）の EPS $9.58 を使用。FY26（0y）ベースでは 37.3x。アップルの FY26 は 2026 年 9 月下旬に終了しており、本レポートは同業比較に 0y を用い、34.4x も併記
dividendYield	0.32	単位はパーセントであり、0.32% を意味する（四半期配当 $0.27 × 4 ÷ 株価）

05

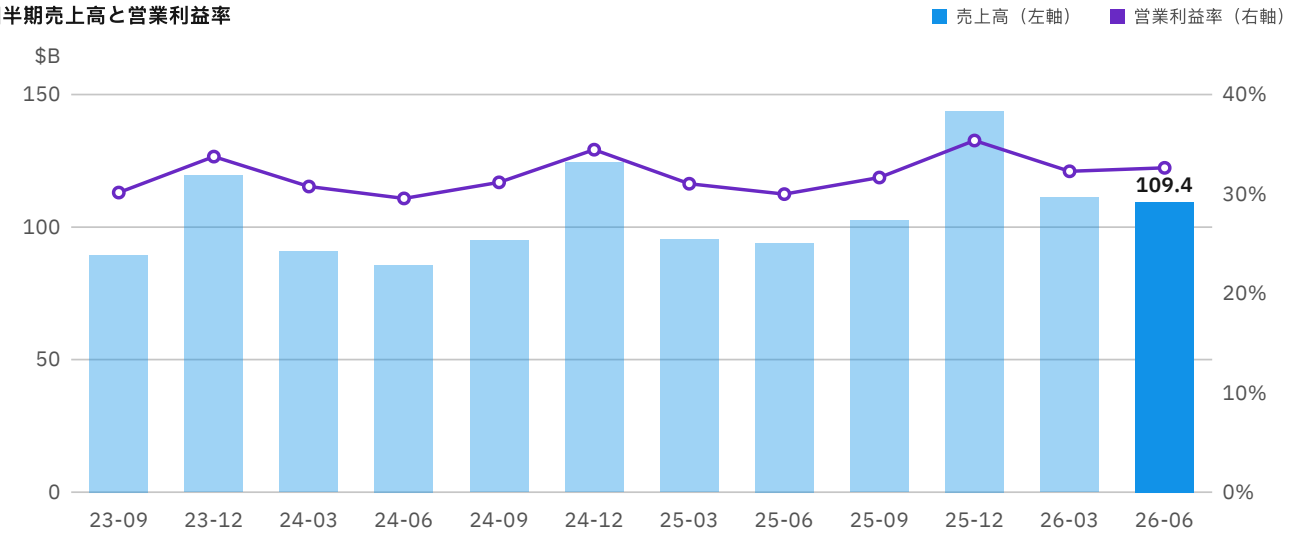
株価の推移

相対パフォーマンス（起点＝100）



週次終値（調整後）、2024-10-06 を100として指数化。右端の数字は期末の値です。

四半期売上高と営業利益率



直近12四半期。出典：SEC XBRL。

06

同業比較

ティッカー	名称	時価総額	1カ月	年初来	1年	PER 実績	PER 今期	売上成長率	粗利率	営業利益率
AAPL	**Apple Inc.**	**$4.81T**	**+5.8%**	**+24.8%**	**+33.0%**	**37.7x**	**37.3x**	**+16.4%**	**48.7%**	**32.6%**
MSFT	Microsoft Corporation	$3.78T	-0.8%	+6.0%	+0.4%	28.4x	25.8x	+17.7%	67.9%	45.1%
GOOGL	Alphabet Inc.	$4.17T	-1.0%	+9.7%	+39.4%	17.1x	16.5x	+24.2%	60.9%	34.0%
AMZN	Amazon.com, Inc.	$2.66T	-7.6%	+6.6%	+12.0%	19.8x	19.2x	+19.6%	50.8%	13.7%
META	Meta Platforms, Inc.	$1.88T	+23.9%	+8.7%	-3.5%	27.8x	23.7x	+28.0%	81.7%	34.8%
DELL	Dell Technologies Inc.	$343.1B	+19.1%	+335.7%	+320.9%	31.4x	20.8x	+57.7%	19.9%	12.0%
同業中央値		*$2.66T*	*-0.8%*	*+8.7%*	*+12.0%*	*27.8x*	*20.8x*	*+24.2%*	*60.9%*	*34.0%*

yfinance の集計で、決算書とは照合していません。今期PER＝株価 ÷ 今期（0y）予想 EPS。forwardPE が来期ベースになる問題を避けています。同業の出典：--peers。中央値は本銘柄を除きます。

同業は MSFT、GOOGL、AMZN、META、DELL とした。最初の 4 社は同規模のプラットフォーム企業であり、DELL は米国上場のハードウェア企業の代表である（サムスンやシャオミは SEC に書類を提出していないため比較できない）。yfinance が自動選定した SONO や UEIC などは規模の差が大きすぎるため除外した。

アップルはこのグループで最もバリュエーションが高く、成長率が最も低い。今期 PER 37.3x に対し中央値は 20.8x、売上高成長率 16.4% に対し MSFT 17.7%、AMZN 19.6%、GOOGL 24.2%、META 28.0%、DELL 57.7% である。営業利益率 32.6% は中位であり、MSFT の 45.1% を下回り、GOOGL や META に近い水準である。GOOGL は成長率が高く利益率も同程度でありながら、PER は 16.5x にとどまる。アップルのバリュエーション・プレミアムは株主還元の安定性とブランド力に依拠しており、定量指標の上では割安とはいえない。

07

スマートマネー

誰が持ち、誰が売買しているか：追跡している人物のうち 6 人が AAPL を保有

人物	データ	報告期間	評価額 / レンジ	ポートフォリオ比率	四半期の変化
ウォーレン・バフェット	13F 保有	2026-06-30	$66.0B	22.0%	据え置き
段永平	13F 保有	2026-06-30	$7.8B	41.1%	一部売却
ルネサンス・テクノロジーズ	13F 保有	2026-06-30	$459M	0.6%	一部売却
ジョージ・ソロス	13F 保有	2026-06-30	$153M	1.9%	買い増し
レイ・ダリオ	13F 保有	2026-06-30	$105M	0.4%	一部売却
李録	13F 保有	2026-06-30	$32M	0.9%	据え置き

人物	日付	取引	金額レンジ
ナンシー・ペロシ	2025-12-30	買い	$250,001 – $500,000
ナンシー・ペロシ	2025-12-30	一部売却	$5M – $25M
ナンシー・ペロシ	2025-12-24	一部売却	$5M – $25M

各人物の最新の公開済み 13F、インサイダー報告、資産開示から。13F には約45日の遅れがあります。 スマートマネー →

08

この先の注目点

2026-10-02

9 月の雇用統計

市場予想は約 9 万人増、失業率 4.1%。強い結果となれば 10 月利上げの観測が高まり、高 PER 株には不利である。

2026-10-16

iPhone Duo の予約開始

納期の長さ。早期に数週間へ延びれば、需要が強いか供給が逼迫しているかのいずれかであり、いずれの場合も 12 月四半期の見通しで確認する必要がある。

2026-10-28

FOMC の政策決定

25bp の追加利上げの有無。9 月のドットチャートの中央値は年末 4.1%、すなわちあと 1 回の利上げを示している。

2026-10-30

FY26 Q4 決算（yfinance のカレンダー、会社は未確認）

売上総利益率が 47%–48% の見通しを維持できるか。関税還付が引き続き計上されるか。12 月四半期の見通しがメモリーコストの上昇を吸収できるか。部品在庫の消化が始まるか。

2026 年 11 月

FY26 10-K

Taction の $5.7B を引当計上するか。無形資産が $13.3B 増加した理由。年度末の顧客集中度と購入義務。

待定

Taction 訴訟の評決後申立てと控訴

裁判所が賠償額を維持するか。継続的なロイヤルティが上乗せされるか。

リサーチ上の記録であり、投資助言ではありません。

出典

株価・アナリストデータ：yfinance + SEC EDGAR、2026-09-28 終値時点、遅延あり。財務データ：SEC EDGAR（XBRL と原資料）。マクロとニュースは各項目のリンク先を参照。赤が上昇、緑が下落。

FRB 9 月の政策実施ノート：https://www.federalreserve.gov/newsevents/pressreleases/monetary20260916a1.htm

CNBC、8 月 CPI：https://www.cnbc.com/2026/09/11/cpi-inflation-report-august-2026.html

CNBC、9 月 28 日の市場動向と米国債利回り：https://www.cnbc.com/2026/09/28/stock-market-today-live-updates.html

CNBC、8 月雇用統計：https://www.cnbc.com/2026/09/04/jobs-report-august-2026.html

MacRumors、アップル FY26 Q3 決算：https://www.macrumors.com/2026/07/30/apple-3q-2026-earnings/

VectorShift、FY26 Q3 決算説明会の記録（見通しの詳細）：https://vectorshift.ai/research/companies/apple/earnings/2026-q3

Apple Newsroom：iPhone 18 Pro、iPhone Duo

ロイター（Claims Journal 転載）、Taction 評決：https://www.claimsjournal.com/news/national/2026/09/28/340403.htm

次回 FOMC の日程：https://www.federalreserve.gov/monetarypolicy/fomccalendars.htm

決算説明会の記録は SEC 提出書類ではない。9 月四半期の売上総利益率見通しが関税還付を含むかどうかについて、MacRumors と VectorShift の記述が食い違っており、確認できず。

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/2026-09-28-aapl · 2026-10-01 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料から。株価データには遅延があり、出典は各レポートに明記しています。

レーティングはすべての読者に向けたリサーチ上の見解であり、個人への売買の推奨ではありません。投資にはリスクがあります。最終判断はご自身で。